

行政視察報告書

令和5年3月10

長浜市議会議員 田中真浩



私が出席した行政視察の結果について報告します。

記

視察等名 令和4年度会派新しい風行政視察研修

視察期間 令和5年2月13日(月)～2月15日(水)

視察場所及び目的

- ①滋賀県大津市
「商店街問題について」
- ②兵庫県川西
「病院統合」
- ③徳島県徳島市
「DX カーボンニュートラル」
- ④徳島県神山町
「地域おこしについて」

調査内容感想等

・視察の目的

大津市商店街

令和5年2月13日(月)10:30分～12:00

1日目

視察テーマ【商店街問題について】

・視察の内容

商店街の衰退に歯止めをかけ、観光産業・地場産業の活性化を図る

大津市の商店街も長浜駅前商店街と同じ問題を抱えている。この問題は国内地方都市の商店街が多かれ少なかれ抱えている問題である

商店街衰退の問題点

- *商店街の後継者不足で出店者が高齢化しているため、空き店舗が増加している。
- *大規模小売店舗の増加で商店街の集客が難しくなっている。
- *EC(電子商取引)が増え、自宅で買い物ができ商店街を必要としない購買スタイルが確立されつつある
- *空き店舗の持ち主が店を閉めておいても、年金・蓄えで生活に困らない場合、無理に店を開ける必要がない。
- *人に店舗を貸す場合も煩わしさや責任問題まで考えられるとなると、貸すより閉めておいたほうが楽という選択をしがち。

上記問題点からの考察

商店街というものは元々その地域で、商いを生業とする人たちの集合体で元来その顧客はその周辺の住民である。商店街の本来のマーケット範囲はせいぜいその商店街と隣接するコミュニティーまでが限界であると思う。そしてこのマーケット内に住む人が利便性・廉価・を求めたなら大規模小売店やEC(電子商取引)に顧客が流れていくのは自然で止めるのは難しい。多少高くても顔見知り、近所のよしみで買うという意識もコミュニティーの中で人間関係が希薄となった現在ではあてにはできない。見方を変えると、減少した店舗数が現在の顧客数とのつりあった適正数ともいえる。衰退した商店街に以前の活気を取りもどすには、その当時の顧客数を確保しなければならぬのだけれど、上記の理由で近隣住民の引き戻しはむずかしい。となれば遠方、広範囲から不特定多数を集客することが必要で、これはもう商業ではなく観光の範疇である。実際、大津市商店街では商店街に放送局を置き集客を図ろうとしています。しかしながら観光は水物でコスト以上の成果が得られないことが多いし資本を投下し続けなければ集客を保てないことが多い。行政としては都市計画の時点で本当にそこに商店街がある必要があるのか、商店街以上の利用価値はないか、普通の居住地として再整備したほうがよいのではないか等、当該住民と次世代をみ据えたプラン立てなければならぬと考えます。時代の流れに抗う政策はコストがかかる上にリスクも多い。観光産業や商業はコスト以上の収益や効果がなければ意味がない。その収益をもとに資本を投下し続け自走できなければ市のお荷物産業である。イニシャルコストの面倒はみてもランニングコストまでは見るべきではない。医療、防災、教育はこの限りではないが、観光業・商業に対してはそういう角度から見る必要があると思う。

調査内容感想等

・視察の目的

兵庫県川西

令和5年2月2日(水)14:00分～16:00

1日目

視察テーマ【病院統合について】

・視察の内容

市内の病院を統合する先進例の視察

川西市は人口15.5万人、東西を山地に挟まれた南北に長い地形で大阪に近い南部に比べ北部が発展していない。高度成長期大阪のベッドタウンとして人口が急増し、高度成長期の失速とともに人口が減少し始め現在に至っている。市直営の市立川西病院は人口が疎である北部の安全・安心・良質な医療を基本理念とし運営されてきた(中南部は民間病院がある)人口の減少とともに赤字経営が続き地方公共団体経営健全化、また、医療においては国からの新公立病院改革プランによる改善に迫られ、医療機関再編が不可避となる。

結果的に川西市では、市立川西病院と医療法人共和会共立病院の2病院が再編統合され指定管理者制度で運営されることとなる、指定管理者が共和会。

指定管理者制にすることで諸問題に対しても細かな配慮がうかがえる。

市立川西病院の職員は分限免職となり公務員待遇を失うが公務員待遇に固執する者には一般職員として採用を進めており約1/5、(50名弱)が市職員となる。新病院に移行するまでは勤務条件を現状とし給与面でも一定期間中は差額を補填している。

川西市の病院統合はハードの面で新病院を建設しており市立川西病院後地には内科、整形外科小児科、等の外来診療を行う分院(北部診療所)が基本構想にあったがなかなか住民理解は得られなかった。住民感情として今あるものが無くなるということにはひどく不安を覚えることとなる外来診療が残り高度診療所であっても、診療所だし急性期病院としては機能しないのだからもっともといえども、こういった住民説明には大変な根気がいるのだろう。そんな中、北隣の猪名川町、今井病院から西川病院跡地に病床を増加して移転できないかの打診があった。3病院を2病院体制にするプランは好ましいものだがすでに2病院指定管理体制で話が進んでる中、国との絡みもあり時間的に無理があった。結果、新川西病院と今井病院の連携は双方にメリットがあるものとされたため統合川西病院(指定管理者・協和会)と今井病院(医療法人清風会)が”地域医療連携推進法人”として連携を密にすることを進めている。

”地域医療連携推進法人”

医療機関相互間の機能を分担及び業務の連携を推進し地域医療構想を達成するための一つの選択肢。(競争よりも協調を進める。)

考察

長浜市と同条件ではなく、しかも長浜市は病院を新設するわけでもないのどこまで川西市のケースを参考とできるかはわからない。指定管理者制度をとるのか、独立行政法人でいくのか、それぞれに一長一短があるし、地域医療連携推進法人は現時点でまだ考慮された形跡がない。

川西市も長浜市も医師の確保難という面では同じだが、そこに学閥・医局などの問題が絡むとさらに複雑だ。川西市の2病院の統合では指定管理体制がとられ成功例とされているが市立川西病院より共立病院のほうが規模が大きく経営状態もよいところへ再編は市が主導するものの新設病院を建て、しかも指定管理者は共立病院側の協和会にゆだねるため川西病院が共立病院に吸収合併された感がある。2病院の規模に差があることでかえってスムーズに事が運んだと考えられるのではないか。統合する病院の規模とかプライドが同程度だとイニシアチブをとる取れないで話が難しくなるし。こういったことを考慮に入れると、川西市の成功例を参考に指定管理がいいとは言い切れない。ただ一つ、これだけは確信として心に残ったのは、川西市の成功は、再編にあたり徹頭徹尾、気概を持ち信念と責任感をもって、これにあたった有能な担当職員がいたことは明記すべきで、彼のような担当職員が長浜にはいるのだろうか。

調査内容感想等

・視察の目的

徳島県徳島市

令和5年2月14日(月)13:30分～15:30

2日目

視察テーマ【DX・ゼロカーボン】

・視察の内容

DX(デジタルトランスフォーメーション)

- 定義 * デジタル技術を浸透させることで人々の暮らしをより良いものに変革すること
* 既存の価値観や枠組みを根底から覆すような革新的イノベーションをもたらすもの

DXとよく似た言葉にITがあるがITが業務などのデジタル化という意味合いが強のに対しDXはデジタル技術・AI、等を浸透させ革新・変革を目指すものである。

徳島市も多方面から多種のDX政策のすいしんを図り、計画にあたっては住民からの意見をアンケート調査している。徳島市の取り組みの課題として下記を挙げている

- ① 高齢者を対象としたデジタルデバイスへの対応
- ② 行政手続きのオンライン化・電子申請サービスの拡充
- ③ 情報セキュリティ対策の徹底。

DX推進は本当に多方面、多種、多様、の問題に利用できるが、やはり主導する優れた担当者必要になると思う。徳島市の取り組みで長浜市も考えていきたい計画として、高齢者見守りネットワークシステム、行政手続きオンライン化、などがある。選挙でも無料バスや無料タクシーなどに頼らなくても電子投票にしてしまえばコストも下げらるうえに利便性も上がる。選挙には法もあるかもしれないがDXは単にデジタル技術の利用にとどまらず、既存の価値観や枠組みを根底から覆すような革新的イノベーションをもたらすものなのだから電子投票は考慮すべきものだと思う。

カーボンニュートラル

カーボンニュートラルについての説明を聞き終わった後質問をした。「CO²排出量を減らすということは、経済規模を縮小を要求するものではありませんか」と、担当者も僕の質問の意図がよくわかっているようで、否定するような回答ではなく「まあ、そうなんだけど」的ないいかたをされていた。もっとも脱炭素社会がCO²排出量をゼロを目標とすることに対してそんなことは非現実的なのでCO²出量のトータルではかるつまり森林等の植物が吸収するCO²と人間が排出するCO²をプラスマイナスゼロに、というのがカーボンニュートラルなのだけど、脱炭素社会を実現したところで、その効果は疑わしい。温暖化で異常気象だとかいいうが、統計を取ると台風にしても発生数も大きさもさほど変化はない。昔に比べ、情報伝達が進んだから世界の災害を認識しやすくなった結果ともいえる。確かに、50年前に比べ雪も少なくなって、災害も多くなった気がするが、自然のバイオリズム的なものともいえる、自然は長短の周期をもって巡るものだから現在の異常気象と言われているものもこの範囲の中の事象かもしれない、科学者の学説も諸説あるものの温暖化に対しては何か胡散臭いものを感じる。脱炭素社会もカーボンニュートラルにしてもそれを積極的に推進すれば生産量をしいては消費量、つまり経済規模を落とさなければならぬのは目に見えている。国際連合(第二次世界大戦戦勝者クラブ)の無理難題を敗戦国としてずいぶん聞いてきた経緯があるが、そろそろ反発してもいいだろう。実際、世界の40パーセントCO²を排出しているアメリカと中国が積極的でないし、温暖化すれば耕作地が増えるロシアが積極的になるはずもない。発展途上の国にたいしてインフラ整備を抑えなさいなんていうのは、国連の欺瞞にしか見えない。長浜市としては国の助成があるとしても、市の財政をマイナスにしてまで付き合うようなものではないと思う。だいたい、牛殺して虫を食えなんてふざけてる。(昆虫の研究はバイオ大学にしてみらうのはいいかも)

調査内容感想等

・視察の目的

徳島県神山町

令和5年2月15日(月)10:00分～12:00

3日目

視察テーマ【町おこし】

・視察の内容

サテライトオフィスなどの町おこし

考察

説明担当があまり熱がないと言おうか、無気力なのか、サテライトオフィスに対する取り組み方が今一つわからなかった。また神山の中に点在しているはずの見どころも時間の関係で何一つ見ることがなく説明を聞くだけだったので、【地方創生の聖地】ともいわれる神山町サテライトオフィス等の取り組みも、予備知識でイメージしていたものと実物との対比をすることはできなかった。

地方創生とか町おこしで成功例と言われた事業や新しい視点で注目を集めた取り組みが数年を待たずダメになっていく例は枚挙にいとまがない。注目を集めている事業でメディアをにぎわすものも地元住民の大部分が関心がないこともよくある。それを確かめるには実際現地に行って触って話して自分の実経験にしなければ全体像を見ることはできない。(これに時間・経過も重要だけど)

上記のことから、神山の研修には些か不満が残った。しかしサテライトオフィスには興味があるので近々神山を訪れてみるつもりです。